

第 1 回・第 2 回広島市多文化共生市民会議で出された意見

1 指針に盛り込んでほしいこと

- ・ 差別を防止するため、人権は守られるべきものだとすることを盛り込んでほしい。
- ・ 広島市が外国人市民を守って、外国人市民が安心して暮らせるようにしていくのが大切だ。
- ・ 民族教育を行う学校を市が保障するということを加えてほしい。
- ・ 母語しか話せない親と、日本で育った子どもとの間でコミュニケーションが取れないという事例を聞く。母語教育は重要である。
- ・ 自分の叔母が認知症になった時、母語で話すようになった。外国語で対応できる高齢者施設を増やし、人材を確保する必要がある。

2 意識啓発や交流促進について

- ・ 国際交流イベントの広報や、関心を集める方法を工夫するべきである。
- ・ 現在のイベント以外にも、外国人市民が自分の民族・文化について情報を発信する場があればいいと思う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行前よりも国際交流イベントは少なくなったと思う。
- ・ 日本人の側に、「広島市は多文化共生社会を目指している」という認識があるのか疑問である。日本人が多文化共生について理解することが大切だ。
- ・ 普段から外国人と接している子どもは、多文化共生が当たり前だと考えるようになる。普段から日本人と外国人が交流することは本当に大事である。
- ・ 外国人はどうしても同じ出身国どうしで集まりがちである。行事を実施するなどしないと、日本人と外国人が交流することはあまりないであろう。